阿蘇山麓のまち



YAMATO-CHO KUMAMOTO/JPN

明日への道標

平成28年熊本地震・豪雨災害記録誌

概要版



阿蘇山麓のまち



▶ 山都町

YAMATO-CHO KUMAMOTO/JPN

明日への道標

平成 28 年熊本地震・豪雨災害記録誌 2019年3月発行 山都町企画政策課 〒861-3592 熊本県上益城郡山都町浜町6番地 Tel: 0967-72-1111(代表)

発刊に寄せて

平成28年熊本地震及び同年6月の梅雨前線豪雨から3年が経とうとしています。改めまして 犠牲になられた方々とそのご遺族へ謹んでお悔やみ申し上げると共に、被災された皆様へ心より お見舞いを申し上げます。

また、発災直後よりいただきました全国の皆様からの多大なるご支援ご厚情に心から感謝申し上げます。

平成28年熊本地震は、観測史上初めて、わずか28時間の間に同一観測点で2度も震度7を記録し、その後も余震が半年間で4,000回を超えるなど、各地に甚大な被害をもたらしました。

本町におきましても、平成28年4月14日(木)午後9時26分に震度5強(前震)、16日(土)午前1時25分に震度6弱(本震)を記録し、町のシンボルである国指定重要文化財の通潤橋をはじめ、住家や宅地、水道や道路等の町民の生活基盤に多大な被害をもたらしました。そして、この地震によって多くの町民の方が被災され、断続的に続く余震の恐怖から生じる不安な日々と、不便な生活を余儀なくされました。

更に、同年6月20日から21日未明にかけて降り続けた梅雨前線豪雨は、先の地震により緩んでいた地盤へ時間雨量126.5ミリを記録する豪雨が猛威をふるい、斜面崩壊による被害等が発生し、本町に深刻な影響を及ぼしました。特に農林業災害は2,600件以上発生するなど、基幹産業である農林業は大きな打撃を受けました。

このような中、本町では発災直後から速やかな復旧・復興に全力で取り組んできたところです。 この貴重な経験を風化させることなく、発災から今日までの復旧・復興に向けた取組状況、そして震 災で直面した課題やそこから得た教訓を次世代へ継承し、将来の災害に備えるための一助とす ることを目的として、記録誌を作成しました。

本町の復旧・復興へ向けた道のりはまだ半ばですが、一日も早い復興を目指し、皆様からのご 支援に対する感謝を胸に、これからも一歩ずつ着実に前進してまいります。

結びに本誌の作成にあたり、取材やアンケート調査、資料の提供にご協力くださいました多くの方々に、心より感謝を申し上げます。



平成31年3月

山都町長

梅田穰



通潤橋の被災状況 (熊本地震によってアーチ下部より大量の漏水が生じる)

目 次

山都町の動き	٠	٠	۰	٠	٠	٠	•		3
熊本地震と山都町		٠	٠	٠	٠	٠	•		5
豪雨被害と山都町		٠	٠	٠	٠	٠	•	1	1
記憶を後世に・	٠	٠	•	•	•	•	•	1	7
その時、あなたは		٠	٠	٠	٠	٠	•	2	1
資料 • • • • •						•	•	2	6

山都町の動き

平成28年4月に発生した熊本地震で、

山都町では4月14日の前震は最大震度5強、16日の本震は6弱(いずれも山都町下馬尾)を観測しました。 人的被害は震災関連死3名、住宅の被害は全壊16棟、大規模半壊44棟、半壊203棟、一部損壊524棟に達しました。 また、河川5件、道路102件、農地やため池など農業関連施設では181件の被害が発生しました。(H31.3.12.現在)

平成28年4月14日(木) 21時26分 「前震」震度 5 強 (M6.5)

4月14日(木) 平成28年

- 災害対策本部 設置
- 第1回災害対策本部会議
- ○山都町防災計画に基づき、役場関係職員が自主登庁 (防災行政無線併用)
- 国道445号(御船町滝尾) 大規模落石により全面通行止め
- 災害救助法、被災者生活再建支援法の適用

4月15日(金)

- 第2回災害対策本部会議
- 第3回災害対策本部会議
- ○国県町道の多くで、交通規制が発生
- ○町内全域にて、コミュニティバスの運休
- 小学校・中学校・高等学校の休校
- ○役場本庁において給水を開始

平成28年4月16日(土) 1時25分 「本震」震度6弱(M7.3)

4月16日(土)

- ○山都町防災計画に基づき、役場関係職員が自主登庁 (防災行政無線併用)
- 第4回災害対策本部会議
- 第5回災害対策本部会議
- 第6回災害対策本部会議
- ○区長等に対し、防災行政無線にて被災情報の提供を依頼
- 田小野(4/16復旧)、伊勢・高辻・高畑・東竹原・柳(4/19復旧) にて停電が発生
- ○避難準備情報 発令
- 6集落の孤立を確認
- (随時、調整を図り4/22までに孤立解消)
- 蘇陽支所において給水を開始

- 第7回災害対策本部会議
- 第8回災害対策本部会議
- 第9回災害対策本部会議
- 各県の日赤、DMATが医療相談等の支援に入る
- ・内閣府からプッシュ型の支援(飲料水、栄養補助菓子)
- ・県からプッシュ型の支援(パン、水)
- ・西脇市(兵庫県)よりプッシュ型支援
- (飲料水、アルファ米、ブルーシート、毛布)
- ※以後、その他、多くの方々からの支援物資を随時受入

4月18日(月)

- 第10回災害対策本部会議
- 小学校・中学校・高等学校の休校 (~4/24まで)

4月19日(火)

- 第11回災害対策本部会議
- ○各所においてボランティアによる給水が開始される ・東竹原老人憩いの家、旧菅尾小学校、馬見原公民館

4月20日(水)

○ 第12回災害対策本部会議

4月21日(木)

- 第13回災害対策本部会議
- 一部路線を除き、コミュニティバスの運行を開始
- 災害ボランティアセンター総合相談窓口が開設
- 救援物資について、プル型へ移行(県)
- 山都町災害ボランティアセンター開所(社協)

4月22日(金)

- 第14回災害対策本部会議
- ○被災証明書、り災証明書の交付申請受付を開始 (被災証明書は即時交付)
- 震災ゴミの第1次受入 (~4/28まで、期間中99件)
- 山都町医師会による避難所巡回 (4/25、26)
- 自衛隊支援の入浴場が開設 (~5/5まで)

4月23日(土)

- 停電の解消(蘇陽地域の一部)
- り災証明書交付申請に基づく家屋被害認定調査 開始 (以後随時)

4月24日(日)

○ 上水道・簡易水道における全ての断水の解消

4月25日(月)

- 第15回災害対策本部会議
- 小学校・中学校・高等学校の再開
- ○激甚災害の指定

4月27日(水)

○ 第16回災害対策本部会議

4月28日(木)

- 第17回災害対策本部会議
- 特定非常災害の指定
- 救援物資について、プッシュ型受入中断

5月2日(月)

-) 第18回災害対策本部会議
- 上水道・簡易水道における全ての濁水の解消

5月6日(金)

- 第19回災害対策本部会議
- 震災ゴミの第2次受入(~5/8まで、期間中59件)
- ○上益城郡五町震災復興連絡会議の設置

○大規模災害復興法に基づく「非常災害」の指定

5月12日(木)

- ○り災証明書の交付開始
- 応急仮設住宅(山都町原団地)の建設着手

5月17日(火)

○ り災証明 2 次申請に基づく家屋被害認定調査 開始 (以後、随時)

5月24日(火)

○ みなし仮設住宅入居(町内8世帯、町外5世帯) (~H29年5/1まで)

5月31日(火)

○ り災証明書等交付申請の締切

6月1日(水)

- 被災者支援に係る総合案内窓口の設置(本庁舎)
- ○本庁舎における夜間待機体制を解除

6月2日(木)

○原地区避難者が北浜館より 「原地区コミュニティ施設」へ移動

6月3日(金)

○ 震災ゴミの第3次受入開始(要事前連絡)

6月6日(月)

○ 千寿苑における職員による夜間待機体制を解除 (山都町社会福祉協議会へ委託)

○原地区避難者の原地区コミュニティ施設への 避難が終了

○ 通潤橋復興事業支援金 募集開始

6月11日(土)

○ 指定避難所「千寿苑」での避難者数が「0」に (役場本庁に5人有)

豪雨災害 6月20日(月)-21日(火)

○20日夜遅く~21日未明にかけて大雨が降り続く 午前0時頃には記録的短時間大雨情報が発表される

6月21日(火)

○ 災害対策本部会議 (豪雨災害対応)

6月23日(木)

○ 災害対策本部会議 (豪雨災害対応)

6月30日(木)

○応急仮設住宅(山都町原団地)完成、引渡

6月30日(木)

○山都町罹災者見舞金支給実施要綱に基づく 見舞金の支給開始

7月1日(金)

○ 応急仮設住宅入居(原地区6世帯)

8月10日(水)

○ 義援金の配分開始

9月12日(月)

○ 平成28年 熊本地震による被災者に対する 町民税等の減免に関する条例の公布

9月16日(金)

- 災害対策本部の廃止(嘉島町及び甲佐町と同時)
- 平成28年 熊本地震復興推進本部の設置

○地域支え合いセンターを山都町社協に設置 (町からの業務委託)

3月31日(金) 平成29年

() り災証明交付申請締切 (写真判定による一部損壊は平成31年3月31日まで受付)

4月13日(木)

○ 応急修理申請締切

4月27日(木)

○通潤橋保存修理工事見学所オープン (見学所設置:平成30年3月25日まで)

5月1日(月)

○ 公費解体申請締切

6月15日(木)

○ 平成28年熊本地震復興基金交付金 各支援事業受付開始 (その後、交付金要項の改正に伴い事業を追加)

9月29日(金)

○ 熊本地震被災者の今後の住まいに係る意向調査 (半壊以上265戸) (~10/20まで)

1月15日(月) 平成30年

○ 熊本地震被災者個別相談会開始

その時、町は、人は

熊本地震と山都町

それは経験したことがない大きな揺れでした。平成28年4月14日(木)21時26分、熊本県熊本地方でマグ ニチュード6.5の地震が発生、上益城郡の益城町で震度7を、熊本市や宇城市、西原村などで震度6弱を観測 し、山都町でも震度5強を観測しました。そして、その衝撃の冷めやらぬ4月16日(土)1時25分、更に大きな マグニチュード7.3の地震が発生。益城町と西原村で震度7を、熊本市や宇城市、南阿蘇村、嘉島町などで震度 6強、山都町で震度6弱を観測しました。町内では、2度の大きな地震と、度重なる余震で生活の基盤である住 宅や道路、水道施設などがいたるところで被害を受け、一部の地域では孤立集落も発生しました。町の象徴と もいえる通潤橋にも大きな被害が発生するなど、かつて経験したことがない大災害となりました。



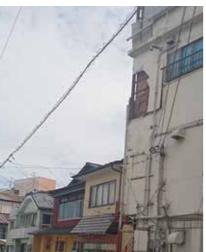
井無田地区



島木地区



島木地区



下市地区



原地区



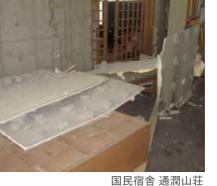
郷野原地区







国民宿舎 通潤山荘





清和高原天文台





矢部小学校



町立図書館清和分館



旧大野小学校石碑



清和中学校職員トイレ



東竹原体育館



中島南部体育館

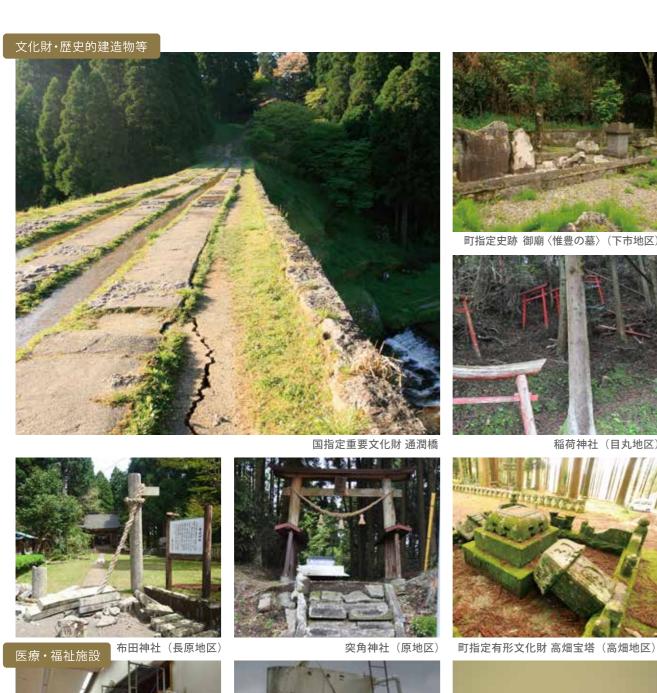


清和グラウンドナイター照明



下矢部西部体育館

その時、町は、人は

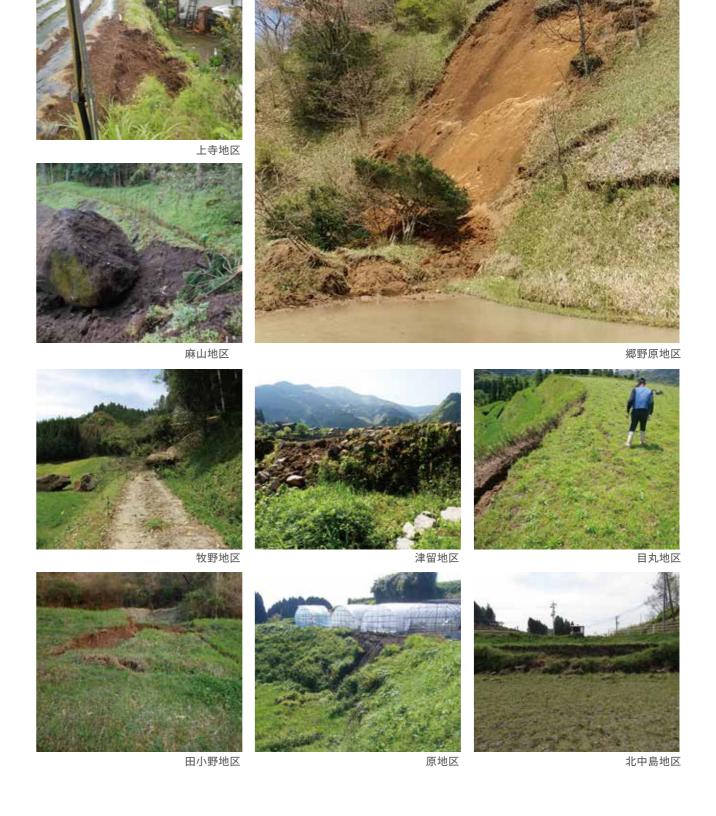










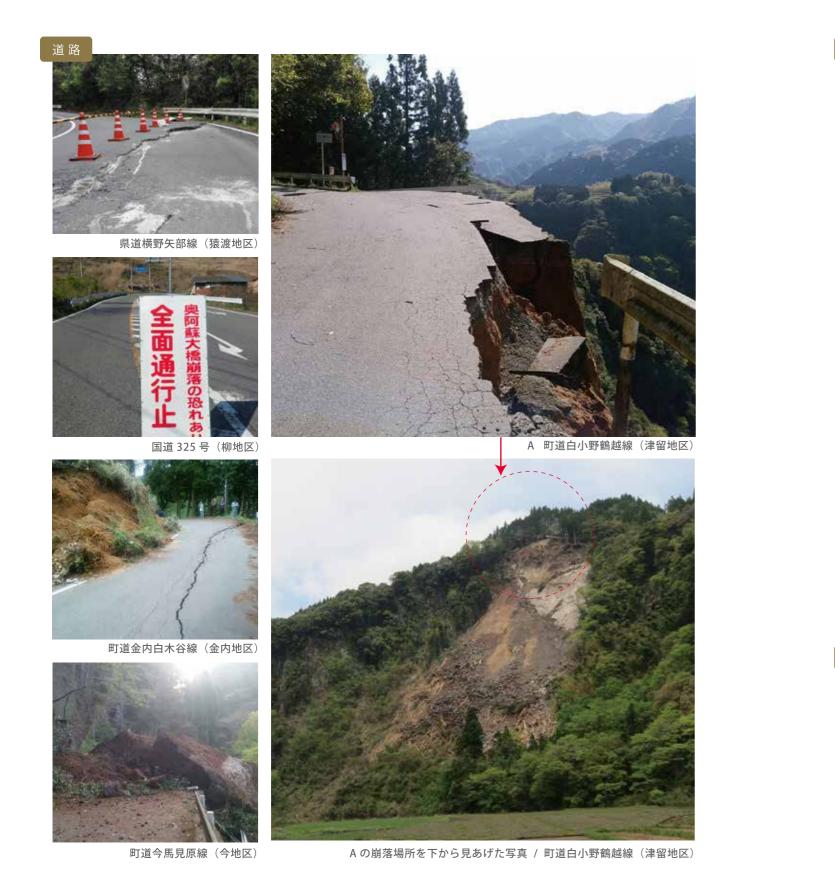








その時、町は、人は







● 豪雨被害と山都町

またも豪雨が町に

山都町には一級河川の緑川、五ヶ瀬川があり、2つの川に流れ込む数多くの支流があります。無数の川 は九州脊梁山地の険しい山々や阿蘇外輪山の裾野にあたる町のいたるところに谷を刻み、台風の襲来も 多く、これまで度々、大雨による水害や土砂被害に見舞われてきました。記憶に新しいところでは昭和63 年5月3日、平成18年6月26日に記録的な被害が発生しています。そして平成28年6月、熊本地震からの 復旧がようやく軌道に乗りかけた矢先、今度は豪雨が町を襲いました。住宅への浸水被害のほか、道路被 害そして、町の基幹産業である農林業の生産基盤にも甚大な被害をもたらしました。













上寺地区













中央グラウンド 高齢者生産活動センター

またも豪雨が町に







五老ヶ滝川 (下市地区)



名ヶ川(白小野地区)



町道小川杉の鶴線(御所地区)

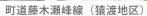


県道横野矢部線 (猿渡地区)



町道白小野鶴越線 (荒谷地区)







国道 218 号(白小野地区)





県道清和砥用線(目丸地区)



県道稲生野甲佐線 (島木地区)



町道津留支線 (津留地区)



県道清和砥用線 (津留地区)

またも豪雨が町に

見晴山公園

猿ヶ城キャンプ村



山都町を守る人々

山都警察署

岡部 竜介

平成28年3月末、山都警察署清和駐在所に赴

任。駐在所で熊本地震に遭い、すぐに近隣の被害

を確認。その後、通報への対応や避難所開設の支

援などを行う。平成30年より山都警察署で勤務。

記憶を後世に

いかに支援のニーズを 把握するか、地元の人との 情報共有が大切

平成28年当時、私は宮崎県都城市にある 第43普通科連隊本部管理中隊に所属して おり、地震発生時は任務で熊本市内の北熊 本駐屯地に来ていました。実は、翌日には 都城に戻る予定でしたが、そのまま北熊本 駐屯地で災害派遣活動に従事、「連絡幹部」 の命を受け山都町の支援に入りました。

連絡幹部は、被災地の支援ニーズを汲み 上げ、どんな支援をすればいいのかを判 断、調整する役割です。役場の防災係と連 携しながら「道路が塞がっている」「水が足 りない」などの支援ニーズを取りまとめ、 活動の方針を決めました。地元からの要 望で多かったのは物資の不足に対するも の、また薬が足りない、病院に行けないなど 医療関係の支援、給水支援のニーズも多く ありました。

自衛隊で仮設のお風呂を用意して入浴の 支援も行いましたので、その場所をどこにす るかなど、いろいろなご要望に応えられるよ うに、各所と連絡を取り合いながらスムーズ に支援が行き届くように心を配りました。

今回の任務で難しかったのは、小さな集 落のニーズまで吸い上げること。山奥の集 落などには地図を見ながら、細い道をた どって行きましたが、すべての方のニーズ



陸上自衛隊 都城駐屯地 第43普通科連隊第四中隊 1等陸尉 長竹 是官

陸上自衛隊第43普通科連隊第四中隊に 所属。熊本地震発生後、連絡幹部として山 都町に派遣され、自衛隊による山都町への 支援の調整に携わった。

を把握できたかどうかはわかりません。 今後への教訓として、地元の人しか利用し ない細い道路の情報など、地元の人との情 報共有がもっと密になれば、支援の効率が 上がると感じました。

また、住民の方と接し感じたのは、普段か らの備えの大切さです。非常食や水は、救 助・支援の手が入るまでの最低3日分は用 意しておくことが大切ですし、家具が倒れ ないようにしておくことなど、災害が起き たらどうなるか、自分はどう行動するべき かを常にイメージすることが大事だと改め て思いました。私も普段からの訓練、心構え をしっかりとし、いつ災害支援等の任務に ていきたいと思います。



「災害への備えは、 普段からの心構えが大切」と語ります

避難は事前に、迅速に。 今年から災害モニター制度も

とが、崩れた土砂の撤去といった復旧工事 に、地元の企業などが率先して素早く動い てくださったことです。おかげで、道が寸断 されるなどで生じていた世帯や集落の孤 立を、早い段階で解消することができたと 思います。このような地域の方々の連携や 力添えは、山都町の強みだと思いました。

一方で、困ったこともありました。災害時

熊本地震と豪雨の際、私は主に被災地で

の救援活動と、開設された避難所、公民館、

自主避難先などを回っての住民への声掛

その中で、本当にありがたいと思ったこ

けと困りごとの聞き取りを行いました。

に避難を促しても、高齢者の中に「私はこ こから動きたくない」と言って断る人が多 くいらっしゃったことです。人命第一です ので、避難してもらわなければいけないの ですが、なかなか動いてくださらない。目の 前に危険が迫っていれば、すぐに避難され るのでしょう。しかし、それでは間に合いま せん。早めの避難が何より重要なのです。今 後もいつ災害が起こるか分かりません。避 難の案内があった時は、速やかに対応して いただくようお願いします。

ところで、災害に対する新しい取り組み が平成30年からスタートしました。熊本県

警が始めた災害モニター制度です。これは 県内23署ごとに、区長や消防団員、新聞配 達員など地域の事情に詳しい住民をモニ ターとして委嘱。「土砂が崩れそうだから、 ここは危ないぞ」とか、「ここは大雨が降っ た後で増水しています」といった災害の前 触れや被害状況をモニターから各署に素 早く通報してもらうというものです。もち ろん山都町でも実施しており、避難や災害 対策に活かしていきたいと考えています。



熊本地震を経験し、防災への意識がより高くなったと話す岡部さん

17 明日への道標 概要版

自衛隊による支援の連絡・調整を担当した長竹さん

震災直後から山都町に入り、役場や関係機関と連携しながら、

山都町を守る人々

地域のコミュニティーの存在が スムーズな救助活動、 災害対策の鍵に

山都町、御船町、嘉島町、甲佐町の4町は上益城消防組合消防本部の管轄です。消防組織体系は、1本部・2署(山都消防署と上益城消防署)・1出張所(蘇陽出張所)で成り立っています。通常の勤務体制は職員87名で、そのうち当直人員は山都消防署6名、上益城消防署11名、蘇陽出張所3名、通信指令室3名。全国的に見ても小規模の消防本部です。

現在、管轄4町の通報は、上益城消防組 合消防本部で一括で受け付けています。以 前は山都署にもつながるようになってい ましたが、通信指令室ができてからは一括 いう流れです。通報件数を振り返ると、前 震時に本部で受けた通報は82件。そのうち 出動したのは18件(火災、救急など)で、山 都町からの通報はありませんでした。多 かったのは御船町からの通報です。本震時 の通報は156件で、出動したのは33件(救 急、救助など)。山都消防署への出動指令は 1件で、金内地区からの「避難したいが家 の前に岩が落ちているので、動かすのを手 伝ってほしい」という内容でした。なお、山 都町の倒壊家屋の状況としては、全壊21 戸、半壊118戸、一部損壊133戸でした。

で受けてから山都消防署へ指示を出すと



御船町にある上益城消防組合消防本部で、熊本地震当時のことを話してくれた鳥井さん



上益城消防組合消防本部 警防通信指令課課長 鳥井 公誠

平成27年10月に山都消防署へ赴任。翌年 4月から隊長に。熊本地震、そして豪雨災 害では住民救援、災害対策に尽力。

山都町に関しては、地震より豪雨被害の方が大変だったように思います。危険地域から住民を避難させるために出動した際は、増水した川の横の道を通らねばならず、恐怖を感じました。さらに土砂崩れも発生していて、2回ほど迂回。途中から道が狭くなっていたので消防車両では通れず、軽トラックに乗せてもらって、何とか目的地の集落へたどり着くことができました。

このような経験を通して、ありがたいと思ったのは、地域のコミュニティーがきちんとできていたことです。「あそこの爺ちゃんは、あそこの部屋に寝ている」といった情報を地元の消防団の方たちが大方知っていたり、助け合う気持ちを住民の方々が持っていたので救助もスムーズに行えました。住民同士のつながりがあることは、救助活動や災害支援において大きな力になります。また、消防本部は小規模ながら管轄面積は広いので、消防団をはじめ地元の方々の協力は必要不可欠です。今後はさらに防災への意識を高めていただき、より強いコミュニティーになっていくことを願っています。



熊本地震で気付いた 課題を解決して、 災害に強い町に

活動を通して気付いた課題があります。 ひとつは、役場職員の災害対策においての 役割分担が明確に決まっていなかったた め、防災係に一気に業務が集中したことで す。そこで職員や自治会長にアンケートを 取り、平成29年に防災会議を開いて防災 計画を改定。職員の役割を明確にしまし た。防災計画は町ホームページに掲載して いるのでご覧ください。

次に自主防災組織の活性化です。地震前の自主防災組織率は60.9%と大変低いものでした。役場から活動を呼びかけたこと、

そして地震後に自主防災の意識が高まった ことで、今では山都町28地区のうち、80%弱 ほどの地区で活動がスタートしています。

その他、防災活動にも力を入れました。 平成30年11月4日には土砂災害警戒区域のレッドゾーン、イエローゾーンに建つ住宅を対象に、消防団が注意を呼びかけるチラシを配布。1400カ所程度です。 ハザードマップも平成20年に作成してから改定していなかったので、新しいものを作成中。平成31年3月までに完成させて全世帯に配る予定です。〈上田〉



山都町役場 総務課 防災係

FE 上田 浩

審議員 村山 貴史 (当時:現本渡警察署) 主查 仁田水 啓吾

平成27年1月に新設された防災係。当時は上田係長、仁田水 主査の他に警察から派遣の村山審議員の計3名が在籍。消防、 防災、交通指導、防犯、防災無線に関する業務などを担当。

> 熊本地震のとき、私は、熊本県警察からの 派遣で山都町職員として勤務していました。 地震発生後、私は、被害家屋等の調査やり

> 災証明書の発行業務等に従事させていただきましたが、これらは前例のない業務でしたので、全てが試行錯誤の繰り返しだった苦労を思い出します。

現在は、警察官として勤務していますが、この時の苦労は、私を人として警察官として成長させてくれたと感謝しています。 〈村山〉

4月14日午後9時26分に今までに経験したことがない地震を体験しました。

午後9時40分に災害対策本部を設置 し、町、山都警察署及び消防団で会議を行い、現場では消防団が安否確認や危険場 所の確認を行いました。

・・・・そんな中4月16日午前1時25分に震度6弱の地震が発生しました。消防署や警察署、自衛隊との連携やマスコミ対応、そして消防団は安否確認や危険場所の確認、避難誘導など多くの活動を行い、延べ1,087名の団員が熊本地震の対応を行いました。

熊本地震、豪雨災害から3年が経とうと しております。毎年発生する災害から町民 の生命・財産を守るため、町・警察・消防・消 防団・自衛隊など関係機関が結束して立ち 向かう必要があります。

この経験を忘れることなく、さらなる防 災力強化を目指し、山都町の復興のために 邁進してまいります。 〈仁田水〉



村山元審議員

左:仁田水主査、右:上田係長

その時、あなたは

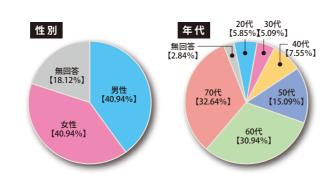
もう一度あの揺れが襲ってきたら、豪雨で水害・土砂災害の危険が迫ってきたら、何を、どうしますか?あわてずに 安全な行動をとれますか?常日頃からの備え、心構えがはできていますか?平成30年11月に実施したアンケート 結果から、町民のいまの防災意識を紐解いていきます。

災害に関するアンケート(調査票)

※一部抜粋

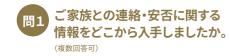
熊本地震、豪雨被害の時、町民の皆さまは、 どのように対処されたのか、 あるいは、2つの自然災害の経験を経て、 いざという時への備え、心構えは どのように変化したのか、 町民の皆さまへのアンケートを行いました。

調査時期:平成30年11月12日(月)~11月30日(金) 対 象 者:町内在住の満20歳以上の男女 1,000名(無作為抽出) 回答者数:530人(回答率 53.0%)



平成28年熊本地震について

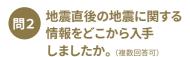
地震発生時、その後の情報収集の状況などについてお尋ねします。



▶ 地震直後の家族との連絡方法は、 携帯電話が主であるが、SNSでの 連絡をとりあった人も1割以上いた

	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%
1	近くにいた	319	60.2%				
2	固定電話	65	12.3%				
3	携帯電話等の通話	281	53.0%				
4	通信事業者等の音声伝言サービス	15	2.8%				
5	SNS(フェイスブック・LINE等)	63	11.9%				
6	知人や入居施設等を介して	14	2.6%				
7	その他	11	2.1%				
8	無回答	11	2.1%				

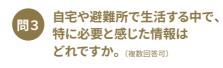
複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)



▶ 地震直後の地震に関する情報入手手段は、 テレビ、家族からの電話・メール、 町防災無線、ラジオの順になっている

	選択肢	件数	割合	20%	40%	6096	8096
1	ラジオ	116	21.9%				
2	テレビ	455	85.8%				
3	家族からの電話・メール	131	24.7%				
4	近所の方や地域の方から	56	10.6%				
5	仕事先	27	5.1%				
6	県ホームページ	10	1.9%				
7	町ホームページ	4	0.8%				
8	Yahoo!!などの民間のホームページ	26	4.9%				
9	山都町防災情報メール	120	22.6%				
10	防災行政無線	94	17.7%				
11	SNS (フェイスブック・LINE等)	62	11.7%				
12	情報を入手していない	5	0.9%				
13	その他	13	2.5%				
14	無回答	4	0.8%				

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)



▶ 特に必要と感じた情報は、道路の 通行規制情報、知人や家族の安否情報、 余震などの地震の情報、電気・上水道、 通信関係の復旧見込み情報など

	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%
1	知人や家族の安否情報	300	56.6%				
2	余震などの地震の情報	301	56.8%				
3	避難所の開設・運営に関する情報	135	25.5%				
4	食料など支援物資の提供情報	186	35.1%				
5	電気・上水道・通信関係の復旧(見込み)情報	277	52.3%				
6	教育に関する情報	19	3.6%				
7	天気・気温・警報などの気象情報	100	18.9%				
8	スーパーやガソリンスタンド等の営業情報	116	21.9%				
9	道路の通行規制情報	356	67.2%				
10	公共交通機関の復旧情報	87	16.4%				
11	り災証明の発行など、生活再建に関する情報	88	16.6%				
12	医療機関の診療情報	97	18.3%				
13	家屋の修理・解体に関する情報	90	17.0%				
14	仮設住宅に関する情報	18	3.4%				
15	資金や貸付金に関する情報	37	7.0%				
16	その他	5	0.9%				
17	無回答	16	3.0%				

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)

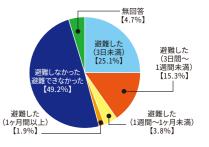
地震発生後の避難の状況などについてお尋ねします。



地震(前震の揺れ) 以降、あなたは避難 (夜間のみも含む)しましたか。

(○は1つだけ)

	選択肢	件数	割合
1	避難した(3日未満)	133	25.1%
2	避難した(3日間~1週間未満)	81	15.3%
3	避難した(1週間~1ヶ月未満)	20	3.8%
4	避難した(1ヶ月間以上)	10	1.9%
5	避難しなかった・避難できなかった	261	49.2%
6	無回答	25	4.7%
	回答数	530	100%
	([回答者数	530人)



問4で「避難した」と回答した方に お尋ねします。避難した理由は 何ですか。(複数回答可)

▶ 半数近くの人が、地震後に避難しており、 避難の理由のほとんどは 「まだ余震が続くと思ったから」

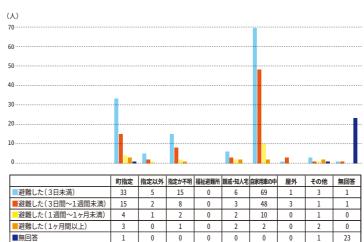
	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%	
1	まだ、余震が続くと思ったから	212	78.8%					
2	自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから	28	10.4%					
3	停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状況だったから	28	10.4%					
4	集落や家族内でその場所に避難することを決めていたから	25	9.3%					
5	消防や町職員などに避難するよう呼びかけられたから	14	5.2%					
6	地域の人に避難するよう呼びかけられたから	23	8.6%					
7	その他	16	5.9%					
8	無回答	24	8.9%					

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 269人)



問4で「避難した」と回答した方にお尋ねします。 あなたが避難した場所はどこですか。

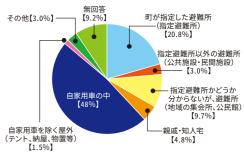
[複数の避難場所にいた方は、一番長く居た場所](〇は1つだけ)



	Ь.	L.			la.	ш.	_		
	町指定	指定以外	指定か不明	福祉避難所	親戚・知人宅	自家用車の中	屋外	その他	無回答
避難した(3日未満)	33	5	15	0	6	69	1	3	1
避難した(3日間~1週間未満)	15	2	8	0	3	48	3	1	1
避難した(1週間~1ヶ月未満)	4	1	2	0	2	10	0	1	0
避難した(1ヶ月間以上)	3	0	1	0	2	2	0	2	0
無回答	1	0	0	0	0	0	0	1	23

	選択肢	件数	割合
1	町が指定した避難所(指定避難所)	56	20.8%
2	指定避難所以外の避難所(公共施設・民間施設)	8	3.0%
3	指定避難所かどうか分からないが、避難所(地域の集会所、公民館)	26	9.7%
4	福祉避難所	0	0.0%
5	親戚·知人宅	13	4.8%
6	自家用車の中	129	48.0%
7	自家用車を除く屋外(テント、納屋、物置等)	4	1.5%
8	その他	8	3.0%
9	無回答	25	9.2%
	回答数	269	100%

(回答者数 269人)





問6で「自家用車の中」と回答した方に お尋ねします。自家用車の中に避難した 理由は何ですか。(複数回答可)

▶ 自家用車に避難した理由は「車が一番安全と思った」が もっとも多く、次いで「ブライバシーの問題」

_							
	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%
1	余震が続き、車が一番安全と思ったため	109	84.5%				
2	小さい子どもや体が不自由な家族がいたから	19	14.7%				
3	プライバシーの問題により、避難所より車中避難の方がよいと思ったから	35	27.1%				
4	ペットがいたから	11	8.5%				
5	避難所が満員で入れなかったから	1	0.8%				
6	他に近隣で避難できる場所がなかったから	12	9.3%				
7	避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから	3	2.3%				
8	一度は避難所に避難したが、避難した避難所が閉鎖されたから	1	0.8%				
9	一度は避難所に避難したが避難所に居づらくなったから	0	0.0%				
10	その他	10	7.8%				
11	無回答	24	18.6%				

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 129人)



問4で「避難しなかった・ 避難できなかった」と回答した方に お尋ねします。避難しなかった・ できなかった理由は何ですか。(複数回答可)

▶ 避難しなかった理由は、「自宅が安全で避難の必要がない」と思った人が大半を占めるが、「どこに避難すればいいかわからなかった人」が5.4%、「避難所までの移動が困難だった人」が5.0%いる

	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%
1	自宅が安全で、避難する必要がないと思ったから	246	94.3%				
2	どこに避難すればよいのか分からなかったから	14	5.4%				
3	乳幼児・病人や体が不自由な家族が居て、避難するのが困難だったから	12	4.6%				
4	避難所までの移動が困難だったから	13	5.0%				
5	避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから	8	3.1%				
6	避難しようとした施設が損壊しており、危ないと思ったから	2	0.8%				
7	ペットがいたから	14	5.4%				
8	その他	16	6.1%				
9	無回答	20	7.7%				

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 261人)

災害全般について

災害の備えについてお尋ねします。



事前に災害の備えとして 何をしていますか。(複数回答可)

_							
	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	8096
1	食糧・飲料水の備蓄	254	47.9%				
2	避難場所、経路の確認	146	27.5%				
3	お住まいの地区の危険地域(ハザードマップ)の確認	85	16.0%				
4	近隣の指定避難所までの避難経路の検討	31	5.8%				
5	山都町防災情報メールの登録	67	12.6%				
6	風呂に水を溜める	106	20.0%				
7	家族との連絡方法の確認	184	34.7%				
8	家具の固定	107	20.2%				
9	家の耐震補強	41	7.7%				
10	非常用持出品の準備	148	27.9%				
11	地域の自主防災活動や消防団への参加	42	7.9%				
12	その他	18	3.4%				
13	無回答	60	11.3%				

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)

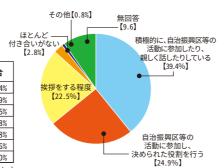
地域や近所での関わりについてお尋ねします。



あなたは普段、近所付き合いを どのようにしていますか。(OlalopElf)

▶ 普段の近所付き合いは、 6割強の人が、自治振興区等の 活動に参加している

			17
	選択肢	件数	割合
1	積極的に、自治振興区等の活動に参加したり、親しく話したりしている	209	39.4%
2	自治振興区等の活動に参加し、決められた役割を行う	132	24.9%
3	挨拶をする程度	119	22.5%
4	ほとんど付き合いがない	15	2.8%
5	その他	4	0.8%
6	無回答	51	9.6%
	回答数	530	100%
		(回答者	数 530人)



問11

あなたは災害時、地域や 近所との方と協力して 何をしましたか。(複数回答可)

▶ 災害発生時に、近所の人に声かけしたりされたりした人が6割弱、近所の人の安否確認をした人は4割強。4.2%の人は避難所の運営に協力した

	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%	
1	声かけしたり、されたりした	305	57.5%					
2	近所の人の安否を確認した	224	42.3%					
3	近所の人の避難に手を貸した	37	7.0%					
4	消防団・自主防災組織の活動	33	6.2%					
5	避難所の運営に協力した	22	4.2%					
6	何もしなかった	84	15.8%					
7	その他	24	4.5%					
8	無回答	54	10.2%					

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)

これからのことについてお尋ねします。



今後、避難生活を行う必要が 生じた場合に、必要だと思われる ものは何ですか。 (複数回答可)

▶ 今後、避難生活を行う必要が生じた場合に、必要だと思われるものは「食糧、水等の救援物資の確保」が7割、「トイレ衛生面の確保」が6割となっており、このほか「指定避難場所、福祉避難場所情報の周知」も4割強にのぼる

	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%	:
1	指定避難所、福祉避難所情報の周知	230	43.4%					
2	要配慮者に対する支援体制の確保	160	30.2%					
3	食糧、水等の救援物資の確保	380	71.7%					
4	トイレ、衛生面の確保	324	61.1%					
5	防火•防犯対策	129	24.3%					
6	情報通信機器	162	30.6%					
7	医師、看護師の手配	148	27.9%					
8	電源、空調等の設備	138	26.0%					
9	風呂等の入浴設備	214	40.4%					
10	その他	15	2.8%					
11	無回答	46	8.7%					

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)



あなたは今後、地域での防災 活動として大切だと思うことは 何ですか。(複数回答可)

▶ 今後、地域での防災活動として大切だと思うことは 「地域で高齢者など自力で避難が難しい人を助け合う 体制づくり」が最も多く、次いで「防災(災害)情報の 伝達強化」「地域での危険場所を知らせる地域版 防災マップの作成」が多くなっている

	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%
1	地域での危険箇所を知らせる地域版防災マップの作成	231	43.6%				
2	防災(災害)情報の伝達強化	241	45.5%				
3	地域での避難訓練の実施	154	29.1%				
4	避難所の運営訓練	84	15.8%				
5	炊き出し訓練	83	15.7%				
6	地域で高齢者など自力で避難が難しい人を助け合う体制づくり	320	60.4%				
7	災害の経験を地域で伝承していくこと	96	18.1%				
8	地域の学校や会社などと一緒になった防災対策の取組み	96	18.1%				
10	その他	9	1.7%				
11	無回答	51	9.6%				
	15 ML To feet as 1 and						+

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)



あなたは災害時の地域での 共助の取組みが円滑に行われる ために、普段どのような取組みが 必要だと思いますか。(複数回答可)

災害時の地域での共助の取組みが円滑に行われるために普段から必要と思われる取り組みは、「地域の祭りなど、住民の顔の見える関係づくり」「住民の防災意識の向上を図る活動」「行政による自主防災組織の活動支援」の順

	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%
1	地域の祭りなど、住民の顔の見える関係づくり	269	50.8%				
2	平時における地域内での避難訓練	128	24.2%				
3	自主防災組織の重要性や活動内容を伝える研修会の開催	103	19.4%				
4	災害の経験を地域で伝承する活動	94	17.7%				
5	住民の防災意識の向上を図る活動	217	40.9%				
6	行政による自主防災組織の活動支援	139	26.2%				
7	その他	11	2.1%			_	
8	無回答	57	10.8%				

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)



命や財産を守るため、あなたは県や 町の行政に対して、どのような取組みを 望まれますか。重視して進めるべきだと 考えるものを3つ選んで下さい。

命や財産を守るため行政の取組みで望むことは、「雨量や水位などの危険を知らせてくれる情報」が最も多く、次いで「避難道路や避難拠点施設などの整備」「災害が発生した時の避難場所や非難経路がわかる地図等の情報提供」の順

	選択肢	件数	割合	20%	40%	60%	80%	
1	消防団や自主防災組織等の育成強化	217	40.9%					
2	災害が発生したときの対処方法を学ぶ定期的な訓練	186	35.1%					
3	災害が発生したときの避難場所や避難経路がわかる地図等の情報提供	234	44.2%					
4	雨量や河川の水位など危険を知らせてくれる情報	289	54.5%					
5	学校等での防災教育	89	16.8%					
6	避難道路や避難拠点施設などの整備	237	44.7%					
7	その他	14	2.6%					
8	無回答	41	7.7%					

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)



今後の復旧・復興に向けて、 重視すべき視点を3つ選んで下さい。

▶ 今後の復旧・復興に向けて重視すべき点は、 「若い世代が町に残り、住み続けたくなる 環境を創出する復興」「安全・安心を確保 する復興」「近所付き合い・地域コミュニティを 大切にした復興」などの回答が多かった

	選択肢	件数	割合	20%	40%	6096	80%	
1	安全・安心を確保する復興	304	57.4%					
2	高齢者の生きがい・健康づくりを重視した復興	137	25.8%					
3	若い世代が町に戻り、住み続けたくなる環境を創出する復興	350	66.0%					
4	国・県・周辺市町村と連携した復興	152	28.7%					
5	事業実施における無駄を省いた効果的・効率的な復興	154	29.1%					
6	近所付き合い・地域コミュニティを大切にした復興	217	40.9%					
7	美しい景観や、町のよさを取り戻す復興	84	15.8%					
8	その他	7	1.3%					
9	無回答	27	5.1%					

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。(回答者数 530人)

災害に対する考えをお尋ねします。

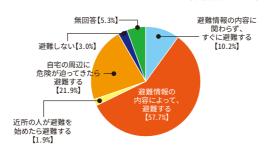


災害の危険性が高くなり、町から 避難情報が出された場合、あなたは どのような行動をとると思われますか。 この中からあなたの考えに最も 近いもの1つを選んで下さい。

▶ 町から避難情報が出された時、「避難情報の内容に関わらず、すぐに避難する」と答えた人は10.2%で、57.7%の人は「避難情報の内容によって、避難避難する」と回答、「自宅の周辺に危険が迫ってきたら避難する」と答えた人が21.9%だった。

	選択肢	件数	割合
1	避難情報の内容に関わらず、すぐに避難する	54	10.2%
2	避難情報の内容によって、避難する	306	57.7%
3	近所の人が避難を始めたら避難する	10	1.9%
4	自宅の周辺に危険が迫ってきたら避難する	116	21.9%
5	避難しない	16	3.0%
6	無回答	28	5.3%
	回答数	530	100%

(回答者数 530人)



資料

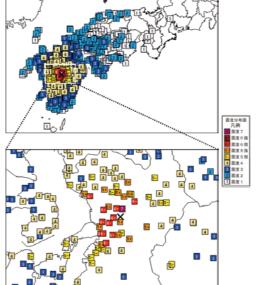
熊本地震の 概要

平成28年4月14日(木)21時26分、4月16日(土)1時25分に2度にわたって震度7の地震が発生。一連の地震活動で震度7の地震が連続して観測されたのは日本国内では今回が初めてとなる。熊本地震の特徴として言われているのが余震の多さ。本震が発生した4月16日には震度1以上の地震が1000回を超え、2日後の4月18日には2000回を超え4月30日には3000回を超えた。2度にわたる大地震によって県内では電気、水道、ガス、道路などの生活インフラに大きな影響を受け、避難者数は一時最大18万人にのぼった。

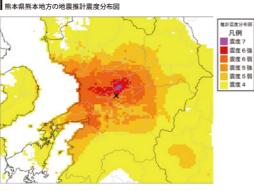
本町においても4月14日の前震は震度5強、16日の本震は震度6弱(いずれも山都町下馬尾)を観測。人的被害は震災関連死3名、住宅の被害は全壊16棟、大規模半壊44棟、半壊203棟、一部損壊524棟に達した。(H31.3.12現在)また河川5件、道路102件、農地やため池など農業関連では181件の被害が発生している。

前震

4月14日21時26分 熊本県熊本地方の地震(M6.5、深さ11km、最大震度7)の震度分布図(×印は震央を示す。)

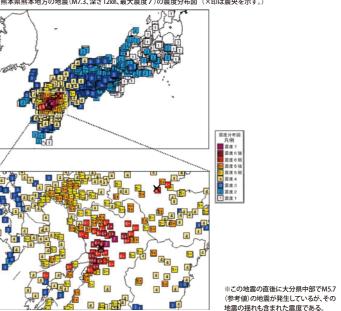


2016年4月14日21時26分頃の

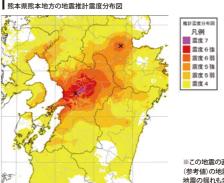


本震

■ 4月16日01時25分 ■熊本県熊本地方の地震(M7.3、深さ12km、最大震度7)の震度分布図(×印は震央を示す。)



2016年4月16日01時26分頃の



※この地震の直後に大分県中部でM5.7 (参考値)の地震が発生しているが、その 地震の揺れも含まれた震度である。



地震の際に観測される震度は、ごく近い場所でも地盤の違いなどにより1階級程度異なることがある。また、このほか震度を推計する際にも誤差が含まれるため、推計された 震度と実際の震度が1階級程度ずれることがある。このため、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目して利用されたい。 なお、この推計震度分布図は震度の精査後に再作成したものであり、地震発生直後に発表したものとは一部異なる。

出典:気象庁ホームページ

1 地震の状況

(1) 本町における4月14日~5月末 までの地震発生回数の推移

※J-ALERTにおいて、気象庁から発表された数値を集計したもの。 ※累計は、震度1以上の地震回数を期間中合計したもの。



(2) 本町における震度別地震回数

震度5弱以上 •4/14 21:26 5強 •4/15 00:03 5弱 •同 01:53 5弱 •4/16 01:25 6弱

※町外を含めると、震度5弱以上の地震は4/19の後、 6/12、8/31にそれぞれ2回発生した。

※表はJ-ALERTにおいて、気象庁から発表された数値を集計したもの。

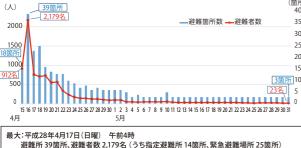
発生後	期間	最大震度別回数							震度1以上を 観測した回数	
		震度1	震度2	震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	回数	累計
第1週	4/14 - 4/20	80	80	37	16	2	1	1	217	217
第2週	4/21 - 4/27	9	9	2	0	0	0	0	20	237
第3週	4/28 - 5/4	19	12	2	0	0	0	0	33	270
第4週	5/5 - 5/11	22	6	0	0	0	0	0	28	298
第5週	5/12 - 5/18	15	4	1	0	0	0	0	20	318
第6週	5/19 - 5/25	14	2	0	0	0	0	0	16	334
第7週	5/26 - 6/1	3	1	0	0	0	0	0	4	338
第8週	6/2 - 6/8	10	2	1	0	0	0	0	13	351
第9週	6/9 - 6/15	5	3	0	0	0	0	0	8	359
第10週	6/16 - 6/22	6	2	1	0	0	0	0	9	368
第11週	6/23 - 6/29	2	2	0	0	0	0	0	4	372
第12週	6/30 - 7/6	2	1	0	0	0	0	0	3	375
第13週	7/7 - 7/13	2	0	1	0	0	0	0	3	378
第14週	7/14 - 7/20	4	1	0	0	0	0	0	5	383
第15週	7/21 - 7/27	2	1	0	0	0	0	0	3	386
第16週	7/21 - 8/3	2	0	0	0	0	0	0	2	388
第17週	8/4 - 8/10	1	1	0	0	0	0	0	2	390
第18週	8/11 - 8/17	2	0	0	0	0	0	0	2	392
第19週	8/18 - 8/24	4	0	0	0	0	0	0	4	396
第20週	8/25 - 8/31	5	1	0	1	0	0	0	7	403

2 人的、住家等被害及び避難状況

(**1**)人的被害 · 震災関連死 3名

(2)住家の	(H31.3.12現在)				
調査結果	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	合計
熊本地震	16	44	203	524	787

(3)避難箇所及び避難者数



避難所 39箇所, 避難者数 2,179名 (うち指定避難所 14箇所、緊急避難場所 25箇所) 延べ避難者数 (6/20現在):9,732名 (夜間避難者数)

4 町道、農地等の被害の概要

地震の被害と認められた件数等(災害査定後)及び復旧状況 (H31. 2.28現在)

	項目	災害件数	査定額	契約件数	完了件数	完了事業費	
	河川	5件	24,000千円	5件	5件	25,290千円	
公共	道路	102件	567,047千円	102件	102件	550,018千円	
災害	橋梁	件	千円	件	件	千円	
	合 計	107件	591,047千円	107件	107件	575,308千円	
林業	治山	3件	10,287千円	3件	3件	10,245千円	
M 災害	林道	15件	135,311千円	12件	12件	86,940千円	
火吉	合 計	18件	145,598千円	15件	15件	97,185千円	
	田	75件	149,455千円	49件	28件	75,049千円	
	畑	12件	16,822千円	11件	10件	17,476千円	
	水路	41件	140,625千円	32件	20件	85,076千円	
農業	道路	51件	156,560千円	41件	33件	124,607千円	
災害	(うち橋梁)	件	千円	件	件	千円	
	ため池	2件	25,001千円	2件	2件	21,719千円	
	揚水機	件	千円	件	件	千円	
	合 計	181件	488,463千円	135件	93件	323,927千円	
農業	美用倉庫等被害	85 経営体	381,695千円	167件	165件	373,516千円	
火用光田会主放场中,1931年(J.31.3日始7							

約16億 680万円 査定総額 完了事業費総額 約13億6,993万円

3 ライフラインの被災状況と復旧状況

(1)電気

地区名	補足	復旧 (解消)
伊勢、柳、高辻、高畑、東竹原	阿蘇方面からの送電地域	4/19 (火曜)
滝下(蘇陽)	落石による	4/23 (土曜)
田小野		4/17 (日曜)

(2)断水、濁水状況(上水道、簡易水道)

	地区名	復旧(解消)	
断水	₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩	最大 2,473戸	4/24 (日曜)
濁水	被災時最大 4,063戸	最大 3,732戸	5/ 2 (月曜)

(3)道路

道路名等	被災状況
国道445号 (御船町地内)	全面通行止め
国道218号(白小野付近)	一時期、交通規制
国道325号 (奥阿蘇大橋)	一時期、交通規制
町内、全ての県道	交通規制
町道 26路線	一部、全面通行止め

5 観光施設の被害の概要

被害状況及び工事額

施設名称	被災状況	工事額
国民宿舎 通潤山荘	4階ホール天井破損 など	148,632 千円
猿ヶ城キャンプ村	法面崩落	3,769 千円
清和高原天文台	天体望遠鏡土台損傷など	1,376 千円
道の駅 そよ風パーク	レストラン空調設備破損 など	17,879 千円
その他、観光施設	法面崩壊、公園進入路ヒビ割れ など	4,066 千円

件数 17件 総額 約1億7,572万円

6 教育施設等の被害の概要

(1)学校施設 ※被害があったもの

·中島小学校 ·矢部小学校 ·御岳小学校 ·潤徳小学校 ·蘇陽小学校 ·矢部中学校 ·清和中学校 ·蘇陽中学校

(2)文化財等 ※被害があったもの

•国指定 重要文化財(建造物) 「通潤橋」

「通潤用水と白糸台地の棚田景観」 •国選定 重要文化的景観 重要な構成要素 布田神社、

通潤用水、津留ヶ渕道

•町指定 有形文化財(建造物) 9件

•町指定 記念物(史跡) 6件 •未指定 建造物 3件

(3)社会体育施設 ※被害があったもの

•体育館 8棟 ・グラウンド 3箇所

(4)社会教育施設 ※被害があったもの

・清和山村基幹集落センター •町立図書館

7 り災証明書等の交付状況等 (H28.10.31現在) ※非住家含む

(1)被災証明 •申請件数 835件(「被災証明書」を即時交付)

(2)り災証明 申請、調査状況 (調査後、「り災証明書」を直ちに交付)

分類	申請受付件数	調査件数②	調査率 ②/①	備考
1次	791	788	99.6%	
2次	100	99	99.0%	
3次	3	3	100.0%	



8 生活再建支援等

(1)応急仮設住宅の状況

•6戸(山都町原団地) ※6月30日県引渡し、7月1日入居

(2)みなし仮設住宅の状況

•13世帯

(3) 応急修理の状況 (H29.9.30現在) ・申請件数 183件(うち発注済数 168件) ·完了済件数·交付額計 135件 73,598,084円

(4)公費解体の状況 (H29.9.30現在)

•解体済件数 121件 解体費:311,865,331円

※熊本県解体工事業協会に業務委託

(5)義援金、見舞金

ア 義援金・県配分及び町にいただいた義援金の額

県より受入(10次配分まで) 117,000,000円 町への受入 18,259,649円 合計 135,259,649円

	区分	単価 (円)	件数 (件)	義援金配分額 (円)
人的被害	死亡	1,000,000	3	3,000,000
	全 壊	720,000	16	12, 800, 000
	大規模半壊	360,000	43	17, 200, 000
住家被害	半壊	360,000	201	80, 400, 000
让多板音	一部損壊	100,000	35	3, 500, 000
		50,000	9	450,000
		30,000	13	390,000
	合 計		319	116, 740, 000

イ 罹災者見舞金

※山都町罹災者見舞金支給実施要綱に基づくもの (H29.10.17現在)

損害の種類	住家被害程度	件数(件)	見舞金支払額 (円)
全 壊	住家亡失	16	3,630,000
土 依	畜舎(亡失と同程度) 1	1	100,000
大規模半壊	住家の半壊	43	4, 200, 000
半 壊	注象の干板	202	20, 300, 000
十 俵	畜舎 (半壊と同程度)	5	250,000
	合 計	267	28, 480, 000

※義援金の配付時期と見舞金の支給時期が異なるため、 住家被害程度の件数は必ずしも一致しない。

(6)町民税等の減免(条例に基づく措置、H29.10現在)

ア 対象者 ・計368名

※平成28年熊本地震被災者台帳に登録されている者のうち、職権による減免の対象となる 納税義務者又は同じ世帯に属する納税義務者

イ 減免額

税の種類	件数	減免額 (円)
町県民税	301	13, 969, 400
国民健康保険税 (H28分)	167	16, 587, 800
国民健康保険税 (H29分)	155	8, 113, 900
固定資産税(家屋)	292	2,712,000
合 計		41, 383, 100

9 様々な支援、活動等

(1)国、熊本県による人的支援

•応急危険度判定 国土交通省

文部科学省(学校施設等調査)

•窓口等対応 熊本県

(2)派遣団等

・宮崎県及び宮崎県内自治体派遣団(五ヶ瀬町、高千穂町、日之影町)

・岡山県吉備中央町 ・茨城県龍ケ崎市

・DMAT(各県日赤、各県DMAT、新潟県医療チーム、岐阜県保健師チーム 等)

・他、各派遣団による支援(山都町医師会による避難所巡回)

(3)ボランティアによる支援 (山都町ボランティアセンター)

•登録者数 142名

参加ボランティア者数 206名

•活動件数 25件(活動依頼 34件)

・活動内容 支援物資搬入、避難所での炊き出し支援、介護施設での支援 家屋掃除、壊れた壁やブロック等の片付け・運搬 等

(4)自衛隊による支援 活動期間:4月15日~5月5日

•活動部隊 陸上自衛隊 西部方面隊 第8師団 第42普通科連隊(北熊本駐屯地) 第43普通科連隊(都城駐屯地) 同 東部方面隊 需品教導隊(松戸駐屯地)

•支援内容 物資支援、輸送支援 入浴支援:4/22(金曜)~5/5(木曜)

給水支援:最大時2台体制(4/25終了) 入浴者数 延べ1,194名

(5)山都町消防団の出動状況

活動期間:4月15日~7月31日、活動人数:延べ1,087名 主な活動内容:

- •避難所開設、避難誘導
- •危険箇所、被害箇所等状況確認
- ・孤立集落の住民安否確認、避難誘導(蘇陽 滝下地区)
- ・土砂撤去、ガレキ撤去、住宅屋根ブルーシート張り
- •避難所簡易防火水槽設置
- ・被災地パトロール

(7)通潤橋復興事業支援金

(通潤橋未来への懸け橋基金)

平成28年度

平成29年度 平成30年度(12月時点) 229件 11,202,903円 86件 3,995,083円 25件 1,460,728円

(6)物資支援

合計 340件 16,658,714円

豪雨被害の 概要

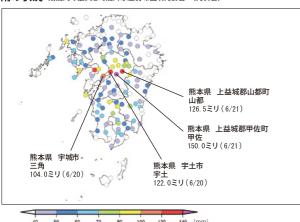
平成28年6月19日から25日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線上を次々と低気圧が通過。特に6月 20日は、東シナ海から接近した梅雨前線上の低気圧が九州北部を通過し21日朝にかけて大雨となった。 甲佐町では6月21日0時19分までの1時間に150ミリを観測し、本町では同0時8分までの1時間に126.5ミリ の大雨を記録、河川や道路、農地など、熊本地震の約6倍もの被害をもたらした。この豪雨被害について 本町をはじめ、美里町、産山村、御船町、甲佐町を対象に激甚災害が指定された。

1 気象の状況

< 梅雨豪雨概要 > 1時間雨量 最大126.5mm

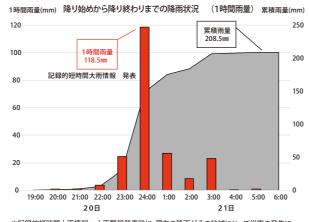
(※アメダス 6月21日午前0時8分までの1時間) (県内最大雨量 甲佐町 150mm ※アメダス観測歴代4位)

雨の状況 期間内の最大1時間降水量分布図(6月19日~6月30日)



出典:気象庁「梅雨前線による大雨 平成28(2016)年6月19日~6月30日」を加工して作成

降雨状況(アメダス)



・国(内閣府、自衛隊を含む)・新得町・清水町・芽室町・鹿追町(北海道)・上山市(山形県) ・本宮市・相馬市・南相馬市(福島県)・龍ケ崎市(茨城県)・大田原市・佐野市(栃木県)

・有田川町(和歌山県)・吉備町・吉備中央町(岡山県)・長門市(山口県)・上勝町(徳島県)

·古賀市·小郡市·赤村(福岡県)·福岡県·嬉野市·玄海町(佐賀県)·波佐見町(長崎県)

·三条市 ·十日町市 ·魚沼市、南魚沼市(新潟県) ·輪島市(石川県) ·西脇市(兵庫県)

・五ヶ瀬町・日之影町・日南市(宮崎県)・垂水市(鹿児島県)・熊本県

・その他、各種団体(町内の事業所、団体、組織多数)・個人(町内多数)

※記録的短時間大雨情報...大雨警報発表時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生に つながるような、稀にしか観測しない雨量であることを知らせる情報

> 最大降雨:平成28年6月20日(月曜)夜遅く~同21日(火曜)未明 ※午前0時頃、記録的短時間大雨情報が発表される。

2 人的・住居等被害の概要

(1)人的被害・なし

(2)住家等の被害認定調査結果住家等の被害認定調査結果

調査結果	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	合計
梅雨豪雨	9	8	27	55	99

(3)避難箇所及び避難者数

最大:平成28年6月21日(火曜) 午前6時 避難所 6箇所、避難者数 56名 (うち指定避難所 3箇所、緊急避難場所 3箇所)



3 ライフラインの被災状況と復旧状況

(1)電気

地区名	補足	復旧 (解消)
三ヶ(松尾、日南田)	土砂崩れに伴う電柱倒壊	6/23 (木曜) 夜のはじめ頃
目丸 (青石、大多良、中尾、西尾、金地)	土砂崩れに伴う電柱倒壊	6/23 (木曜) 夜遅く

(2)断水、濁水状況(上水道、簡易水道)※全体4,812戸

	地区名等	復旧(解消)
断水	津留、猿渡 (瀬峰)、三ヶ (日南田、松尾)、葛原 (岩井谷)	
濁水	运町, 下馬尾, 下市, 城平, 畑前田, 猿渡 (瀬峰), 木原谷	

(3)道路

道路名等	状況
県道横野矢部線 (猿渡付近、市原付近)	全面通行止め
清和砥用線 (堂面付近)	全面通行止め(津留付近にて片側通行止め)
小峰川内線 (貫原付近)	全面通行止め
島木上寺線 (島木~原 間)	全面通行止め
その他町内の国・県道	車線規制以外の交通規制なし
町道 多数	順次、復旧作業

4 町道、農地等の被害の概要

豪雨災害の被害と認められた件数等(災害査定後)及び復旧状況

						(H31.2.28現在)
	項目	災害件数	査定額	契約件数	完了件数	完了事業費
	河川	192件	1,789,555千円	171件	59件	438,025千円
公共	道路	233件	915,696千円	229件	215件	915,438千円
災害	橋梁	1件	7,859千円	1件	1件	8,264千円
	合 計	426件	2,713,110千円	401件	275件	1,361,727千円
1.1.302	治山	11件	50,166千円	11件	11件	43,788千円
林業 災害	林道	71件	259,127千円	64件	64件	242,406千円
7.0	合 計	82件	309,293千円	75件	75件	286,194千円
	田	786件	1,602,804千円	317件	114件	206,105千円
	畑	38件	42,499千円	20件	9件	11,816千円
otto attic	水路	393件	892,678千円	162件	51件	90,253千円
農業災害	道路	389件	901,786千円	249件	114件	281,488千円
7.2	(うち橋梁)	(3件)	(17,385千円)	1件	0件	0千円
	ため池	3件	34,297千円	3件	3件	34,863千円
	揚水機	1件	7,710千円	1件	1件	7,843千円
	合 計	1,610件	3,481,774千円	753件	292件	632,368千円
農業	美用倉庫等被害	_	千円	件	千円	件

査定総額 約65億 417万円 完了事業費総額 約22億8,028万円

5 観光施設の被害の概要

被害状況及び工事額

施設名称	被災状況	工事額
道の駅 通潤橋	「いしばし」「史料館」 浸水	275 千円
猿ヶ城キャンプ場	周辺道路が不通	
道の駅 清和文楽邑	郷土料理館 地下倉庫 浸水	420 千円
青葉の瀬交流促進施設	ロッジー部床上浸水	408 千円
清流館	町道法面崩壊による 土砂流入	
緑仙峡フィッシングパーク	キャビン敷地 土砂流入、2棟 床下浸水	140 千円
道の駅 そよ風パーク	レストラン萌 一部浸水	
井無田高原キャンプ場	浄化槽ブロワー故障	194 千円
その他、観光施設		686 千円



件数 8件 総額 212万円

6 教育施設等の被害の概要

(1)学校施設・全ての小中学校において、施設に雨漏りあり。 その他、法面崩壊、土砂流入などの被害。

(2)文化財等·未指定建造物 1件 (瀬峰橋)

(3)社会体育施設

中央グラウンド 法面崩壊、ナイター設備倒壊

•第1弓道場(中央体育館裏) 床上浸水

町営プール 河川水流入、濾過器ポンプモーター浸水

•白糸第2体育館 法面崩壊

7 生活再建支援等

※山都町罹災者見舞金支給実施要綱に基づくもの

損害の種類	住家被害程度	件数(件)	見舞金支払額 (円)
全 壊	住家亡失	10	2, 220, 000
	畜舎(亡失と同程度)	2	200,000
大規模半壊	住家の半壊	8	800,000
半 壊		28	2,800,000
合 計		48	6,020,000

※6月豪雨災害、7月大雨被害を含む

8 様々な支援、活動等

(1)山都町消防団の活動状況

活動期間:6月21日~7月14日 活動人数 延べ253名 主な活動内容:

- •安否確認及び救助
- ・土砂撤去作業、土のう設置
- ・危険箇所確認、ブルーシート張り
- •支援物資輸送等

(2)ボランティアによる支援 (山都町ボランティアセンター)

・参加ボランティア者数 69名 •活動件数 17件

・活動内容 浸水した住宅の片付け、土砂撤去等

※6/21以降の支援であり、8/29現在(最終)の実績数。